

保存版

小野町 防災ガイドブック

Ono Town Disaster Prevention Guide Book

令和2年3月発行



/// もくじ ///

●町長あいさつ	1
●もくじ	2
●自助・近助・共助・公助による「防災・減災対策」について	3
●ハザードマップを確認しましょう	4
●日ごろから備えておきましょう	5
●「水害」から身を守りましょう	7
大雨	
内水氾濫	
河川の氾濫	
●「土砂災害」から身を守りましょう	9
土石流	
がけ崩れ	
地すべり	
●大雨で被害にあったら	11
●地震災害発生時	13
●地震に備えましょう	14
●「火災」から身を守る	16
火災防止の10項目	
●火災発生時	17
●情報の入手方法	18
●正しい避難行動をとりましょう	19
●家族防災会議を開きましょう	21
●防災マップ	
ハザードマップ(全体図)	22
土砂災害ハザードマップ	23
洪水ハザードマップ	29

小野町防災ガイドブック 発行にあたって

この度、小野町では、地域防災計画の見直しを行いました。近年、令和元年東日本台風(台風19号)や東日本大震災など、現在「想定」を超える災害がいつ発生しても不思議ではない状況となっております。

予期せぬ災害に見舞われたとき、普段からの備えと早め早めの行動が自分の命を、そして大切な家族や地域の人たちの命を守ることになります。

災害を生き抜くため、災害をよく知り、るべき対応策を日ごろから考え、周囲の方と話し合い、事前の準備を怠らず、災害時には、自分の命は自分で守るために正確な情報を得、冷静かつ適切な行動をとる必要があります。

本書では、町民の皆様が日ごろから備えておくべきことや災害の発生した際の行動など重要な事項を抜き出し、分かりやすく取りまとめました。多くの方に本書を読んでいただき、町民の皆様の災害に対する心構えとしてお役だていただければ幸いです。

令和2年3月



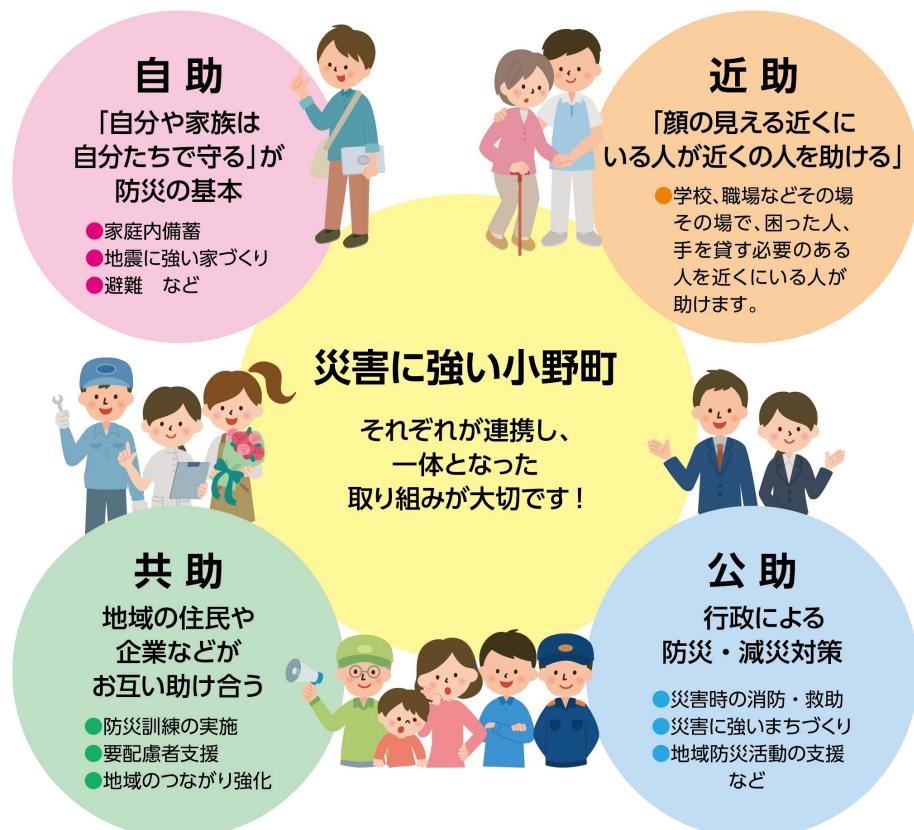
小野町長 大和田 昭

自助・近助・共助・公助による 「防災・減災対策」について

防災・減災対策の基本は、平常時から「自分でできること」、「家庭でできること」、「ご近所と力を合わせてできること」などについて考え、いつ起こるかわからない災害に備えておくことです。

町民の皆さんは、地域の地震・火災・風水害について知り、防災知識を身につけておきましょう。また、災害が発生した場合、災害・被害情報を収集し、落ち着いて自分の身体や家族の安全を守るほか、ご近所の人たちと協力して消火・救助活動に取り組みましょう。

町民の皆さんの方、ご近所同士の方、地域の方、行政の方を合わせて、災害に強い小野町を実現しましょう。



ハザードマップを確認しましょう

ハザードマップとは？

ハザードマップは、風水害や地震などの自然災害が発生したときに想定されるさまざまな被害の範囲や程度を示した地図です。



災害の備えに役立つハザードマップ

災害や想定される被害に応じて、ハザードマップにはさまざまな種類があります。大雨や台風などによる風水害の備えには、「土砂災害ハザードマップ」、「洪水ハザードマップ」があります。

P.22以降のハザードマップを日ごろから確認しましょう。



土砂災害 ハザードマップ

大雨や地震に伴う土砂災害(かけ崩れ・地すべり・土石流)が発生する恐れがある区域などが示されています。福島県が指定した「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」などが示されています。

洪水 ハザードマップ

大雨や台風に伴う河川の氾濫などによって浸水が想定される区域や浸水深などが示されています。道路のアンダーパス(鉄道や道路の下をくぐる場所)で車両が水没するなど重大な事故の危険のある「道路冠水想定箇所」や、過去に浸水した「浸水想定区域」などが示されているものがあります。

ハザードマップを活用しましょう

ハザードマップを確認して、事前にできる具体的な対策を家族で話し合っておきましょう。

- 指定された避難場所や避難所の確認
- 避難のタイミングや避難ルートの検討
- 避難ルートにある危険箇所(ブロック塀、狭い路地、古い建物など)のチェック
- 避難に時間がかかる要配慮者(子どもや高齢者など)の避難方法の検討
- 自宅の補修や土のうの備蓄
- 在宅避難に備えた水や食料の備蓄など

ハザードマップは、あくまで想定にもとづく被害予測であり、被害予測が示されていない場所などでも、想定を上回る危険性があることを意識しておくことが大切です。

日ごろから備えておきましょう

非常持出品

避難までの時間が無いときは必ずすべてを持ち出す必要があります。自分の身を守ることを最優先に考えましょう。

すぐに持ち出せるように、必要最低限のものをリュックなどにまとめて準備しておきましょう。家族構成を考え、必要に応じて高齢者用品や乳児・幼児用品なども忘れずに準備します。
また、年に1度は袋の中身をチェックして内容を見直しましょう。

<input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備の電池も)	<input type="checkbox"/> 携帯電話・スマートフォン(予備のバッテリーも)
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備の電池も)	<input type="checkbox"/> ヘルメットまたは防災ずきん
<input type="checkbox"/> 非常食	乾パンや缶詰のように火を通さないで食べられるもの。 最近は手軽に作れておいしい各種非常食が市販されています。
<input type="checkbox"/> 飲料水	ペットボトルかスチール缶入りのミネラルウォーターなど
<input type="checkbox"/> 救急薬品・常備薬	<ul style="list-style-type: none">●消毒薬 ●解熱剤 ●胃腸薬 ●かぜ薬 ●鎮痛剤 ●目薬 ●体温計●ばんそうこう ●ガーゼ ●包帯 ●三角巾 ●マスク など <p>※持病のある人は常備薬も忘れずに。</p>
<input type="checkbox"/> 衛生用品	<ul style="list-style-type: none">●せっけん ●ティッシュ ●生理用品 ●おむつ ●ドライシャンプー●非常用トイレ(携帯ミニトイレ) など
<input type="checkbox"/> 貴重品	<ul style="list-style-type: none">●現金 ●預金通帳 ●健康保険証 ●運転免許証 ●印鑑●マイナンバーカード など
<input type="checkbox"/> 衣類	<ul style="list-style-type: none">●上着 ●下着 ●靴下 ●軍手 ●雨具 ●ハンカチ ●タオル など
<input type="checkbox"/> 生活用品	<ul style="list-style-type: none">●紙コップ ●紙皿 ●ラップ ●ライター(マッチ) ●ナイフ ●缶切り●ビニール袋 ●アルミシート ●防犯ブザー など
<input type="checkbox"/> その他	<ul style="list-style-type: none">●断熱フィルム ●ろうそく ●ひも ●ロープ ●新聞紙 ●筆記用具●メモ帳 など

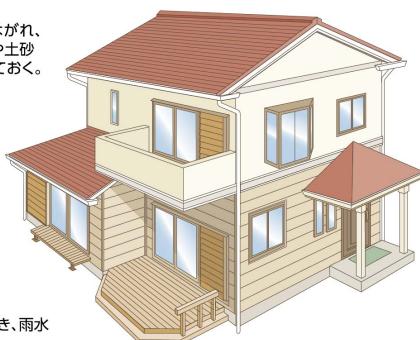
家の周囲の安全対策ポイント

雨どい
継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りがないかを確認。落ち葉や土砂で詰まらせないように掃除しておく。

ベランダ
強風に飛ばされそうな物は置かない。

雨戸
がたつきやゆるみなどがあれば補強する。

側溝
側溝のごみや土砂を取り除き、雨水を排水できるようにしておく。



屋根
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれがないかを確認する。

外壁
モルタルの壁に亀裂はないか、板壁に腐りや浮きはないか、プロパンガスのボンベは固定されているかなどを確認する。

窓ガラス
ひび割れ、窓枠のがたつきはないか確認。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を取る。

ブロック塀
ひび割れや破損箇所は補強する。

●浸水や雨漏りなどを防ぐために、土のうやブルーシートも備えておきましょう(P.6参照)

土のうやブルーシートで浸水などを防ぎましょう

土のう

水深が浅いときは土のうなどで家屋への浸水を防ぐことができます。ただし、いざ災害が発生してから用意するのは大変です。あらかじめ行政区・隣組などと協力して土のうを準備・確保しましょう。

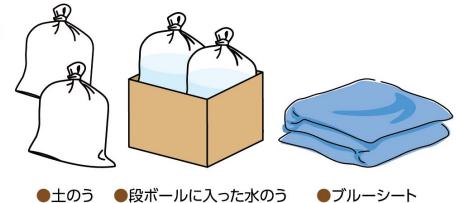
簡易水のう

簡易の水のうは、土のうの代わりとして身近にあるものを利用しても作ることができます。

- ① ビニール袋(ごみ袋)を二重にして水を入れる。
- ② ①を段ボール箱に入れ、出入り口などの水の侵入部にすき間なく並べる。

ブルーシート

ブルーシートは防水性・耐水性に優れ、雨や風、ほこりなどを防ぐだけではなく、避難後の敷物や目隠し、簡易テントなどさまざまな用途に活用することができます。防災用になるべく防水性や耐久性の高い厚手のシートを選びましょう。



自主防災組織防災訓練に参加しましょう

自主防災組織とは、地域住民が連携して防災活動を行う組織のことです。町では、**行政区**が自主防災組織となります。災害時には、避難所の開設・運営、住民の避難誘導などに従事します。いざというとき、最も頼りになるのは「地域住民による協力体制」です。どうすれば家族や地域の人たちを大規模な災害から守れるのか、みんなで話し合って体制づくりに努めましょう。特に、**要配慮者(高齢者、妊婦や乳幼児、障がい者、傷病者、外国人など何らかの助けが必要な人)**への支援は不可欠です。

要配慮者の準備

- 日ごろから隣近所との交流を密にして、信頼関係を築いておく。
- 町が作成する「避難行動要支援者名簿」などに登録しておく。
- 安全な避難経路(車いすの人は階段を避けるなど)を確保し、実際に移動してみる。
- 家族や支援者と一緒に地域の防災訓練などに参加する。
- 災害が迫ったら早めの避難を心掛け、「警戒レベル3」の時点で避難を開始する。

要配慮者を支援する人の準備

- 日ごろから隣近所との交流を密にして、要配慮者を支援しやすい関係を築いておく。
- 行政区・隣組などで要配慮者のいる家庭や家族構成を把握しておく。
- 避難経路の障害物(放置自動車など)を取り除くなど地域の防災環境を整える。
- 要配慮者と一緒に地域の防災訓練などに参加し、必要とされる支援を学ぶ。
- 「警戒レベル3」の時点で、隣近所の要配慮者に声を掛け、一緒に避難する。

「水害」から身を守りましょう

大雨

水害を引き起こす大雨や豪雨とはどのような雨のことでしょうか。気象庁では雨量に応じて判断の目安となる情報を提供し、災害の恐れがあるときは注意報や警報などを発表しています。



雨の強さと降り方の目安

予報用語	1時間雨量(mm)	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上～20未満	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	地面一面に水たまりができる	
強い雨	20以上～30未満		ワイパーを早くしても見づらい	
激しい雨	30以上～50未満		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロブレーニング現象)
非常に激しい雨	50以上～80未満		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
猛烈な雨	80以上			

- 大雨によって災害が起こる恐れのあるときは「大雨注意報」や「洪水注意報」、重大な災害が起こる恐れのあるときは「大雨警報」や「洪水警報」、さらに数十年に一度の重大な災害が起こる恐れが著しく大きいときは「大雨特別警報」が発表されます。
- 数年に一度発生するような短時間の大雨を観測・解析したときには「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表されたときは、お住いの地域で土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

内水氾濫

大雨や豪雨が降ると、用水路から河川への排水が追いつかず、行き場のなくなった雨水が地上にあふれ出す内水氾濫が発生します。また、降水量が多くなると河川に排水できず中小河川で氾濫が発生します。地下空間では注意が必要です。



内水氾濫時の要注意ポイント

気を付けること

- 地上の様子が分からず逃げ遅れる危険がある。
- 地上が冠水すると一気に水が流れ込み、流れ落ちる水で階段は上れない。
- 20cm浸水すると、流れ込む水圧で部屋のドアは開かなくなる。

アンダーパスは通らない

- 鉄道や道路の下をくぐる場所(アンダーパス)は水がたまりやすいので、大雨のときは通らない。
- 60cm程度の水位でドアが開かなくなるので、車が止まつたら直ちに脱出する。
- 緊急脱出用ハンマーを車内に備えておく。

河川の氾濫

大雨などで河川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊して氾濫(外水氾濫)します。内水氾濫に比べ甚大な被害が広範囲に及ぶ危険があり、河川の水位の変化に応じて洪水予報を発表しています。

河川の水位の目安(右支夏井川水位)



河川の洪水予報 川の防災情報 <https://www.river.go.jp/portal/#80>

- | | | |
|------------------------|---|--|
| 右支夏井川氾濫発生情報
(洪水警報) | 河川が氾濫した場合。 | ▶ 気象庁情報 (3.40m) に到達した場合。
氾濫水の浸水区域や浸水深に警戒してください。 |
| 右支夏井川氾濫危険情報
(洪水警報) | いつ氾濫してもおかしくない氾濫危険水位(レベル4水位)に到達した場合。
市区町村の「避難勧告」「避難指示(緊急)」の目安。 | ▶ 危険を感じたら早めに避難してください。 |
| 右支夏井川氾濫警戒情報
(洪水警報) | 一定時間後に氾濫危険水位(レベル4水位)に到達が見込まれる場合、または避難判断水位(レベル3水位)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合。
市区町村の「避難準備・高齢者等避難開始」の目安。 | ▶ 避難準備をするなど氾濫に警戒してください。 |
| 右支夏井川氾濫注意情報
(洪水注意報) | 氾濫注意水位(レベル2水位)に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合。 | ▶ 泛濫に注意してください。 |

浸水から避難するときのポイント

避難は早めに

周囲が浸水する前になるべく地域で声を掛け合って避難しましょう。特に夜間に大雨が予想されるときは、夕方までに避難しましょう。

車で避難しない

車は浸水でエンジンが止まったり、水没したりする危険があります。やむを得ない場合を除き、徒歩で避難しましょう。

動きやすい服装で

荷物は最小限にして背負い、両手が使えるようにしましょう。長靴は水が入って動きにくくなるので、運動靴で避難しましょう。

河川などに近づかない

増水した河川など危険箇所の様子を絶対に見に行かないようにしましょう。

長い棒を利用する

長い棒などを杖のかわりにし、浸水して見えなくなっている道路の側溝やマンホール、くぼみや障害物などに注意しましょう。

無理をしない

歩行可能な浸水深の目安は約50cm。流れがある場合はそれ以下でも危険です。避難が遅れたら高い場所で助けを待ちましょう。

「土砂災害」から身を守りましょう

土砂災害の種類と特徴

土砂災害は、長雨や集中豪雨などが要因となって急傾斜地などで突然的に発生し、一瞬にして大きな被害をもたらす災害です。発生する場所や現象により「土石流」「がけ崩れ」「地すべり」の3つに分類されています。前兆現象なしに土砂災害が発生することもあるので早めの避難が必要です。

土石流

山腹や川底の石や土砂などが、長雨や集中豪雨によって一気に下流へと押し流される土砂災害です。時速20~40kmという速度で進むため、あっという間に人家や田畠をのみ込んで破壊します。

- 山鳴りがする。
- 川が濁り、流木がまぎり始める。
- 腐った土のにおいがする。など



がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が雨水の浸水などで緩み、急に崩れ落ちる土砂災害です。崩れ始めてから崩れ落ちるまでの時間が短く、人家の近くで発生すると逃げ遅れて犠牲になる人が多い灾害です。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、雨水が浸透した地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する土砂災害です。移動する土砂の量が多いため、広範囲に大きな被害をもたらします。

地すべり

- 地面にひび割れや段差ができる。
- 井戸や沢の水が濁る。
- 地面が振動する。など



土砂災害が起きやすい土地

急傾斜地

急傾斜地は、雨でがけ崩れを起こす危険があります。樹木の少ない山間部の渓流は土石流にも注意しましょう。

造成地

丘陵などを切り崩してつくられた造成地は、地質や地形が不安定。豪雨で地盤が緩むと、地すべりが発生する危険があります。

扇状地

山間部に降った長雨や集中豪雨で土石流が発生すると、山のふもとの扇状地が直撃を受ける恐れがあります。

危険な区域を事前に確認

土砂災害防止法にもとづき、土砂災害の恐れがある区域を「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」(以下「土砂災害警戒区域等」という。)として指定しています。自宅などが該当するかハザードマップで確認しておきましょう。

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生したとき、住民の生命または身体に危険が生じる恐れがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害が発生したとき、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危険が生じる恐れがあると認められる区域で、特定の開発行為の制限や建築物の構造規制などが行われます。

●この他に「土砂災害危険箇所」も指定されています。

詳しくは、「福島県土砂災害警戒区域等の指定箇所」(<http://www4.pref.fukushima.jp/sabou/newmain.html>)にアクセスし、「田村郡小野町」で検索すると確認できます。



スマートフォンの場合、令和2年3月現在、Androidのみ動作確認済です。

土砂災害警戒情報

土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる地域を特定して警戒を呼びかける情報です。避難勧告などを発表する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表します。この情報が出たら、特に注意が必要です。

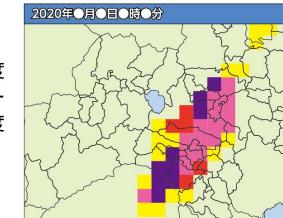
大雨警報(土砂災害)の危険度分布 (土砂災害警戒判定メッシュ情報)

土砂災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階の色分け(危険度は黄→赤→薄い紫→濃い紫の順に高い)で示す情報で、気象庁のホームページで確認できます。10分ごとに更新されるので、どこで危険度が高まっているかが詳しくわかります。

気象庁ホームページアドレス

<https://www.jma.go.jp/jp/doshameshi/>

危険度分布(例)



土砂災害から避難するときのポイント

長雨や豪雨に注意

1時間に50~80mm以上または降りはじめからの降雨量が200~300mm以上になったら、早めの避難を考えましょう。

土石流が起きたら

土石流のスピードは速く、流れに背を向けて逃げても巻き込まれてしまうので、土砂の流れの方向に対して直角に逃げましょう。

前兆現象に注意

土砂災害は前兆現象がみられることがあるので、前兆に気づいたら、避難勧告などが出ていなくても、自己判断で避難しましょう。

避難が遅れたら

危険区域外への避難が困難になった場合は、なるべく頑丈な建物の2階以上で、斜面とは反対側に位置する部屋に避難しましょう。

危険区域を出る

不安を感じたら、避難場所や避難所に行かない場合でも、念のため土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所から外へ出ておきましょう。

避難した後は

土砂災害は雨のピークを過ぎた後に発生する場合もあるので、避難情報などが解除され安全が確認できるまでは帰宅しないようにしましょう。

大雨で被害にあつたら

長雨や集中豪雨によって、河川の氾濫、内水氾濫、土砂災害などさまざまな被害が発生します。被害にあつたり、被害にあいそうになったりしたときの対処法を知っておき、いざというときは冷静に行動しましょう。

自宅近くの比較的小さな河川が氾濫した

国や都道府県が指定した大きな河川の場合は、増水や氾濫に備えて、気象庁と共同で洪水情報を随時発表しており、避難勧告や避難指示(緊急)の目安とされています。

しかし、中小河川の場合は、状況が急変して増水する恐れがありますので、早めの避難を心掛けましょう。

家族で確認!

近年は大きな河川の支川や中小河川の氾濫によって大きな被害が発生しています。小さな川でも油断せず、早めの避難を心掛けましょう。



冠水した道路を運転中に車が止まってしまった

特に舗装されている道路は短時間で冠水しやすいので車の運転は危険です。運転中に車が止まり、水圧でドアも開かないときは、窓から脱出しましょう。電気系統の故障などで窓も開かないときは、緊急脱出用のハンマーなどで窓を割って脱出しましょう。

家族で確認!

エンジンや電気系統が故障していると出火や爆発などの恐れがあるので、水が引いた後も浸水した車を運転するのは避けましょう。



自宅の裏にある急斜面にひび割れなどができた

長雨や集中豪雨などによる斜面のひび割れや湧き水などは、がけ崩れの前兆現象です。土砂災害は一瞬で大きな被害をもたらすため、発生してから避難をしようとしても間に合いません。小さな被害や変化を見逃さないことが重要です。

家族で確認!

急斜面近くにお住まいの人は、異常に気づいたら情報を待つのではなく自己判断で避難を開始しましょう。



河川が氾濫して自宅が浸水被害にあった

災害発生時は、何よりも命の危険から身を守ることが大切ですが、危険が去った後は、生活再建が必要です。住宅等が被害を受けた場合、その程度に応じて公的な支援が受けられます。まずは、町へ相談しましょう。

要注意ポイント

町では、罹災証明書(建物被害を受けた者に対する証明書)及び被災証明書(車や構造物など罹災証明書の対象となる物以外の物で被害を受けた者に対する証明書)を発行します。広域に及ぶ大規模災害の場合、罹災証明書等の発行には時間が掛かります。被害認定調査を受ける前に自力で片付けや修復作業を始めるときは、被災した状況を写真撮影などして記録に残しておきましょう。正確な被害認定を受けられるようになるべく多くさまざまな角度から、外観だけでなく室内も撮影しておきましょう。

家族で確認!

さまざまな支援を受けるためには、町が発行する「罹災証明書」が必要です。忘れずに申請して発行してもらいましょう。



自宅を片付けていたら体調を崩した

被害の程度にもよりますが、被災した家屋の片付けは簡単には進みません。慣れない作業から思わずケガをしたり、疲れがたまって体調を崩したりしてしまうこともあります。あせらず、体調管理に注意しながら進めましょう。

家族で確認!

自力では困難な片付けや修復作業は、無理をしないで専門の業者に依頼したり、ボランティアの支援を受けたりしましょう。



「ボランティア」として活動したい人は

災害ボランティアは、被災地の復旧や復興の大きな力となります。活動に参加したい人は、被災地の社会福祉協議会などが中心となり開設される「災害ボランティアセンター」に登録し、スタッフの指導を受けながら効果的に活動しましょう。個人的に被災地に行くと、かえって復旧作業の妨げになります。持ち物や服装、食事や宿泊先なども準備してから向かいましょう。



地震災害発生時

地震発生の瞬間は、一度に多くのことをすることや適切な判断をすることは大変難しくなります。

まずは、「何もできない」と考えるところから対策をはじめましょう。

全てのことを
やろうと
思わないこと
も防災。



緊急地震速報から地震が来るまでにできること

緊急地震速報を受けてから実際に地震が来るまでの時間は数秒～数十秒。とっさの際にできることを普段からイメージしておくことも大事ですが、落ちついて安全な場所に移動しましょう。



必ず行う対応

すぐに安全な場所に移動しましょう。



マグニチュードと震度の違い

マグニチュードと震度は意味が異なります。マグニチュードは震源で発生した地震そのものの大きさを表し、震度は各地の揺れの大きさを(階級で)表します。マグニチュードは一つの地震に対して一つの数値しかありませんが、震度はそれぞれの場所でどれくらいの大きさの揺れが届いたかを示し、場所によって変わります。マグニチュードが大きいほど、震度が大きいことは限りません。マグニチュードが大きな地震でも、震源から遠いと一般的に揺れは弱くなり、逆にマグニチュードが小さくても震度が近かつたり、浅ければ揺れは大きくなります。

時間があるときの対応

1. 火元に
なりそうなものを
なくしましょう。



2. ドアを開けて
部屋の出口を
確保しましょう。



3. 窓ガラスなどが
割れて飛散しない
ようカーテンを
閉めましょう。



地震に備えましょう

最優先で自分自身と家族の命を守る

揺れが収まってから 行動しましょう



あわてて外に出ると、転倒したり、落下物やガラスの破片などによりケガをすることがありますので注意しましょう。

2階にいる時に 地震にあったら



古い建物の1階は倒壊して身体が押しつぶされる危険があるので、あわてて1階に下りないようにしましょう。

閉じ込められ しまったら



声ではなく
音で知らせる

大声を出し続けると体力を消耗しません。ドアや壁をたたいたり、携帯電話などで大きな音を出し、自分の居場所を知らせましょう。

車を 運転中の時は



道路左側に止めてエンジンを切り待機しましょう。避難する際は、緊急時に車を移動できるように、キーは付けたままロックをせず、車から離れましょう。

避難時の判断は冷静に

デマに注意する



地震が起こると、根拠のないデマが流れ、人の心を惑わすこともあります。災害情報は、テレビ、ラジオ、市町村など信頼できる複数の情報源で確認して、デマに惑わされないようにしましょう。

家族の状況を 確認する



災害時は自分の手や足から血が流れています。誰かがケガをしていても気づかない可能性があります。自宅で地震にあった場合は一緒にいる家族同士でケガがないか、家に危険がないかを確認し、次の行動を判断しましょう。

安全な場所に とどまる



地震直後は道路や駅周辺も混雑、建物の倒壊など二次災害に巻き込まれる可能性もあります。会社や学校など、自分のいる場所の安全が確認されたら、すぐに帰宅せずその場にとどまって様子をみましょう。

地震に備えましょう

地震直後の注意点



ブレーカーを落として避難

地震で停電した場合など、電気が復旧したときに火災が発生することがあります（通電火災）。避難時には、ブレーカーを落として避難しましょう。



伝言はトビラの内側に

家族への伝言や避難場所を玄関の外側に貼り出してもいけません。留守宅を宣言していると空き巣に入られてしまいます。



避難時に足を守るには

大きな地震の後はガレキなどが散乱し足場が悪化します。足や靴を守るために、板など硬い物を靴底の下に敷いて、緩まないようにヒモで縛りガードすることなどが効果的です。



夜間の避難で注意すること

夜間は視界が悪く、転倒や側溝への転落などの危険があります。停電時は、懐中電灯で目視確認を行いながら足元に注意して避難しましょう。



近隣住民の安全確認（近助）

近隣住民同士の助け合いが大切です。近所で閉じ込め、下敷き、負傷などが発生していないか確認をしましょう。



余震への警戒

大きな地震発生後は、余震に注意しましょう。家屋の耐震性に不安がある場合は、あらかじめ安全な場所に避難しましょう。

緊急地震速報の発令

●震度5(弱)以上と推定される場合、テレビやラジオで流れます!

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでは、わずかな時間しかありません。震源に近い場所では、速報が強い揺れに間に合わないこともあります。倒れやすい家具類から離れ、直ちにテーブルや机の下に潜るなど、危険を回避してください。周りの人に声を掛けながら、状況に応じ慌てずに、まず身の安全を確保することが重要です。適切な行動がとれるよう日ごろから訓練し、緊急地震速報の有効活用をしましょう。

ケガや二次災害の防止

●家中での安全を確保、二次災害を防止するための対策です!

就寝中に地震に襲われると家具の転倒や逃げ遅れる可能性があり大変危険です。背の高い家具は寝室、子どもやお年寄りがいる部屋にはなるべく置かないようにしましょう。安全に避難できるように倒れやすいものは出入口や通路に置かないようにしましょう。また、地震による二次災害で最も起こりやすいとされるのが火災です。日ごろから防火、消火を心掛け、浴槽や洗濯機などに水をためておくのも備えの一つです。地震で傷んだ屋内の配線がショートしたり、スイッチが入ったままだった電気ストーブやコンロの過熱などで起る通電火災にも、充分注意をしましょう。地震直後にブレーカーを切ることが大切ですが、復旧後の使い始めに電源を入れる際も気を付けましょう。

「火災」から身を守る



日ごろから生活習慣を見直し、火災を起こさないよう防火意識を高めましょう。この10項目を覚えてください。正しい習慣が火災から身を守ってくれます。

火災防止の10項目

1. ストーブの周辺はすっきりと

特にカーテン、洗濯物には要注意。石油ストーブの給油、移動は必ず火を消してから。



2. 料理中のときはその場を離れない

電話や来客の応対は、必ず火を消してから。そばに燃えやすいものを置かない心掛けも。



3. 寝たばこ、ポイ捨て厳禁

寝たばこは、しない、させない習慣を。火のついたたばこの放置やポイ捨ても厳禁。



4. 放火をさせない環境づくり

家の周りに燃えやすいものを置かない。物置、車庫などのカギはしっかりと。



5. たき火をする時は、必ず消火の準備を

日ごろのしつけをしっかりと。消火用の水を用意して、子どもには大人が必ず付き添う。風のある日のたき火はしない。



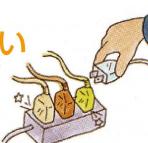
6. 子どもにはマッチやライターで遊ばせない

日ごろのしつけをしっかりと。子どもの手の届く所にマッチやライターを置かず、必ず片付ける。



7. コンセントにこまめな気づかい

たこ足配線、コンセントまわりのホコリに注意。使わない時はこまめに抜く。



8. 就寝前に火の用心

ガスの元栓、コタツのコンセントなど指さし点検で火の元確認。



9. 防炎品を使用しましょう

繊維など燃えやすいものを改良して、燃えにくいものにした防炎品を推奨しています。



10. 消火の備えを万全に

消火器を設置して、防火訓練には積極的に参加しましょう。



火災発生時

建物火災が起きたら

周りの人に大きな声で助けを求めるともに、手近にある消火器などで初期消火をしましょう。

天井まで火が広がつてしまったら、(初期)消火をあきらめ、安全を確保し、いち早く逃げ、速やかに119番通報しましょう。

消火器の使い方(初期消火の仕方)

消火器の正しい使い方を理解し、いざという時に使いやすい場所に備えておきましょう。消火器には有効期限があるので確認しておきましょう。



火災避難時の注意点

白い煙のうちに逃げる

階上より階下に逃げる

煙が出たら腹ばいで逃げる

ハンカチ、タオルなどを鼻と口にあてて逃げる

住宅用火災警報器について

寝室や台所などの天井に設置することで、火災により発生する煙や熱を感じし、音や声により警報を発して火災の発生を知らせます。いざというときに警報器がきちんと動くように、電池切れや交換時期に注意し、定期的に動作確認をしましょう。

住宅用火災警報器の点検とお手入れ

1. 住宅用火災警報器がよぞれていたら	ホコリが付くと火災を感じにくくなります。最低限1年に1回は乾いた布でふきましょう。
2. 定期的に作動点検をしましょう	本体についているひもを引いたりボタンを押して、最低限1年に1回は作動点検をしましょう。 【正常な場合】正常をお知らせするメッセージまたは火災警報音がなります。 【音がない場合】電池がきちんとセットされているか確認してください。それでもならない場合は「電池切れ」か「機器本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。
3. 取り替えのサイン	電池が切れそうになれば、音や光で知らせる機能を有しています。多くの住宅用火災警報器は電池寿命が10年(通常の使用状態)となっており、本体交換のサインにもなりますので、忘れずに交換しましょう。

注: お手入れや作動確認は高所での作業となり、転倒や転落の危険があります。安定した足場を確保して、作業を行ってください。

情報の入手方法

気象情報

- 1 気象庁(福島地方気象台)
→ 024-177
□ <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/> で気象情報を確認できます。



河川水位情報

- 2 川の防災情報 □ <https://www.river.go.jp/portal/#80>
→ 「川の防災情報」で検索することにより、①右支夏井川、②黒森川の水位情報が確認できます。
- 3 川の水位情報 □ <https://k.river.go.jp/>
→ 「川の水位情報」で検索することにより、①五百橋、②早渡橋、③杉内橋、④町屋橋、⑤小塩橋、⑥辻ノ内橋の水位情報が確認できます。
※令和2年3月現在のものです。今後、増える可能性があります。



災害情報・避難情報など

- 4 小野町公式ウェブサイト □ <http://www.town.ono.fukushima.jp/>
- 5 スマートフォンアプリ
→ 「YAHOO! JAPAN防災速報」アプリをダウンロードすることにより、町の災害情報・避難情報が確認できます。
- 6 緊急速報メール
エリアメール・緊急速報メールとは、携帯電話を利用した災害時専用の情報配信の仕組みで、気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、自治体が配信する災害・避難情報など緊急かつ重要な情報について、NTTドコモが提供するエリアメールサービス、au及びソフトバンクモバイルが提供する緊急速報エリアメールサービスを利用し、携帯電話に配信するものです。受信すると専用の着信音が流れ、バイブレーションでも知らせます。
- 7 地上デジタル放送
避難勧告などの情報(避難勧告・指示、避難所開設、河川の水位・雨量)を、地上デジタル放送テレビのデータ放送を通じて、いち早く住民に伝える仕組みです。
- 8 郡山地方広域消防組合ホームページ
<https://www.shobo.koriyama.fukushima.jp/>



防災行政無線

屋外に設置しているスピーカーや防災ラジオを通じて災害情報などを町民の皆さんに伝達します。自動起動放送(全国瞬時警報システム「Jアラート」の緊急情報受信時に起動)と手動放送(職員による手動放送)の2種類の方法により放送します。

●自動起動放送

- 国民保護情報(弾道ミサイル情報、大規模テロ情報など)
- 緊急地震速報、特別警報、各種警報、土砂災害警戒情報、避難情報、火災情報など

●手動放送

- 注意喚起(気象状況や発表時間帯により、放送地域や放送の有無を判断)
 - 避難情報 ●災害情報など
- ▲通信状況の確認のため、毎日定時(6時・12時・17時・21時)にスピーカーや防災ラジオから音楽を流します。

正しい避難行動をとりましょう

避難の心構え

大雨や台風は、事前にある程度予測することができる、正確な情報を入手して、適切に避難行動をとることが重要です。ただし、突発的な集中豪雨などでは、最新の気象情報や避難勧告などを確認するのが遅れる場合もあります。逃げ遅れは命に関わります。

「自分の命は自分で守る」という意識で、危険を感じたら自らの判断で避難行動をとりましょう。



避難所について

自主避難所

町から避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告又は避難指示(以下「避難勧告等」という。)が出される前に開設される避難所です。自宅が「洪水浸水想定区域」又は「土砂災害警戒区域等」のエリア内に含まれる場合や自宅等にいることが不安な場合には、町が事前に指定する自主避難所へ避難してください。

町から避難勧告等が出されると自主避難所から指定避難所に移行します。

自主避難所の段階では、食糧や寝具の提供はありません。

自主避難する場合、あらかじめ1日分の食糧・飲料水や毛布などを準備して避難してください。

指定避難所

町から避難勧告等が出されたときに開設される避難所です。自宅が「洪水浸水想定区域」又は「土砂災害警戒区域等」のエリア内に含まれる場合その他被害拡大の恐れがある地区にお住いの方は該当する指定避難所(P.20参照)へ避難してください。

自主避難所は、P.20の避難施設から町が指定し、防災行政無線などでお知らせします。



避難の流れ

5日～3日前：台風・前線通過予報

- ①テレビ、ラジオ、インターネットなどで気象情報を確認しましょう。
- ②ハザードマップを確認しましょう。
 - ◆自宅が「洪水浸水想定区域」又は「土砂災害警戒区域等」のエリア内(以下「エリア内」という。)に含まれる場合や自宅等にいることが不安な場合
- ③早めに安全な親戚・知人宅へ避難しましょう。
- ④親戚・知人宅への避難が難しい場合
 - ▶町と自主防災会で自主避難所を開設します。
- ⑤自宅がエリア内に含まれない場合
 - ▶屋内の安全な場所を確認しましょう。

2日～半日前：台風・前線の影響による降雨

- ①自主避難所開設のお知らせ
 - ◆場所・時刻は、防災行政無線、小野町公式ウェブサイト、スマートフォンアプリ「YAHOO!JAPAN防災速報」などでお知らせします。
 - ◆避難することを踏まえ、避難先・避難ルートを考えましょう。
- ②自宅がエリア内に含まれる場合や自宅等にいることが不安な場合は、非常持出品(P5参照)や毛布などを準備し、町が指定する自主避難所へ避難してください。

半日～台風・前線が町へ接近・直撃

- ①避難準備・高齢者等避難開始の発令
 - ◆防災行政無線やエリアメール・緊急速報メールなどでお知らせします。
- ②エリア内その他被害拡大の恐れがある地区にお住いの妊娠中の方や小さなお子様連れの方、高齢者など避難に時間を要する方、その他自宅等にいることが不安な方は、非常持出品を準備し、指定避難所へ避難してください。
- ③避難勧告・避難指示の発令
 - ◆防災行政無線やエリアメール・緊急速報メールなどでお知らせします。
- ④★避難所へ移動することができて命に危険を及ぼしかねない場合は、建物の倒壊の恐れがないと判断される自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に避難して救助を待ちましょう。

台風・前線通過後

- ⑤被害が甚大で長期避難が必要な状況が発生した場合
 - ◆小野小学校・小野中学校を指定避難所に追加します。
- ⑥警報が解除され、重大な災害が発生するおそれが低くなった場合
 - ◆避難勧告等を解除し、指定避難所等を閉鎖します。

右岸側と左岸側の考え方について

避難勧告等発令後、避難する際、右支夏井川ができるだけ渡らないように指定避難先を整理しています。P.29・P.30の洪水ハザードマップを確認し、右支夏井川上流から見て「右側が右岸側」、「左側が左岸側」となります。

行政区	本町
B&G海洋センター	荒町(右岸側)
・	谷津作(右岸側)
町民体育館	小野赤沼
	菖蒲谷
	雁股田
	皮籠石
	飯豊上
	飯豊中
	飯豊下
	横町
	仲町
	反町
	大八
多目的研修集会施設	荒町(左岸側)
	中通
	平館
	谷津作(左岸側)
吉野辺集落センター	吉野辺
浮金集落センター	浮金
小野山神ふれあい館	小戸神
	小野山神
夏井多目的集会施設	夏井
	湯沢
	塙庭一区
多目的集会施設	南田原井
	塙庭一区
	塙庭二区
塙庭二区	塙庭二区
多目的集会施設	和名田
上羽出庭地区農村研修センター	上羽出庭
小野小学校	被害が甚大で長期避難が必要な状況が発生した場合のみ開放
小野中学校	

家族防災会議を開きましょう

家族防災会議

大雨や台風などによる災害は、大変身近で危険な自然災害のため誰もが被害にあう恐れがあります。いざというときの被害を最小限に抑えるために、定期的に家族防災会議を開いてわが家の災害対策を確認しておきましょう。災害は日本各地で毎年のように起きています。過去の災害の教訓を生かし、最新の家族防災会議にしましょう。



自宅周辺の危険度

自宅がある地域や場所が、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などに含まれているか、ハザードマップで確認しておきましょう。また、昔の地図と比較して、かつて川であった、田んぼであったなど地歴を調べておくこともオススメです。その土地の過去の水害や土砂災害などの災害事例とあわせて調べてみるとよいでしょう。

気象情報・避難情報

気象庁や市区町村から発表される防災気象情報や避難に関する情報の種類、その意味や入手手段をあらかじめ確認しておきましょう。

新しい防災ツール

テレビやラジオで情報を得て、固定電話で連絡を取り合うといった従来の防災行動に加えて、パソコンやスマートフォンを使ったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など新しいツールを活用した防災行動に慣れておきましょう。特に、高齢者など新しい機器が苦手な人がいる家庭では、使い方を覚えてもらいましょう。

避難場所・避難経路

避難場所の位置を確認し、自宅や学校、職場などからの避難経路を家族で話し合い、実際に歩いてみましょう。

家族の安否確認

災害発生時に最も心配になるのは、離れている家族や友人などの安否です。災害直後は電話がつながりにくくなります。電話以外のどのような手段で連絡を取り合うか、なるべく複数の方法を決めておきましょう。NTTや携帯電話会社では、災害時には音声による「伝言ダイヤル」や文字による「伝言板」を開設します。

NTTの災害用伝言ダイヤル「171」

※音声ガイダンスの指示に従って操作してください。

1 7 1

- 伝言を録音するときは ① → (000) 000-000 → 伝言を録音する (30秒以内)
被災地の人の自宅や携帯電話などの電話番号を市外局番から
→ 伝言を聞くときには ② → (000) 000-000 → 伝言を聞く

携帯電話・スマートフォン「災害用伝言掲示板」

※スマートフォンの利用方法については、
携帯電話会社にお問い合わせください。

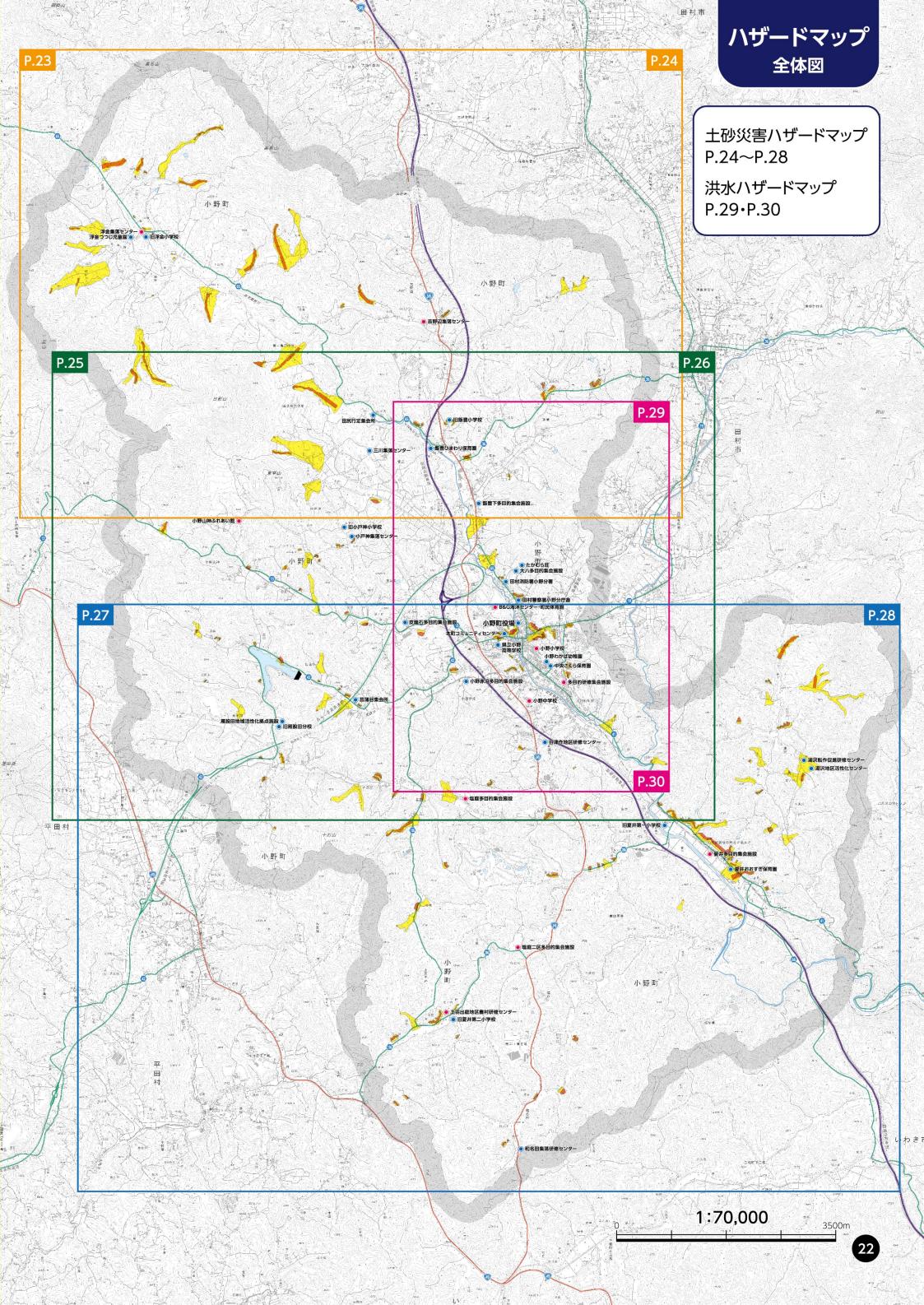
公式メニュー
専用アプリから
「災害用伝言板」
にアクセス

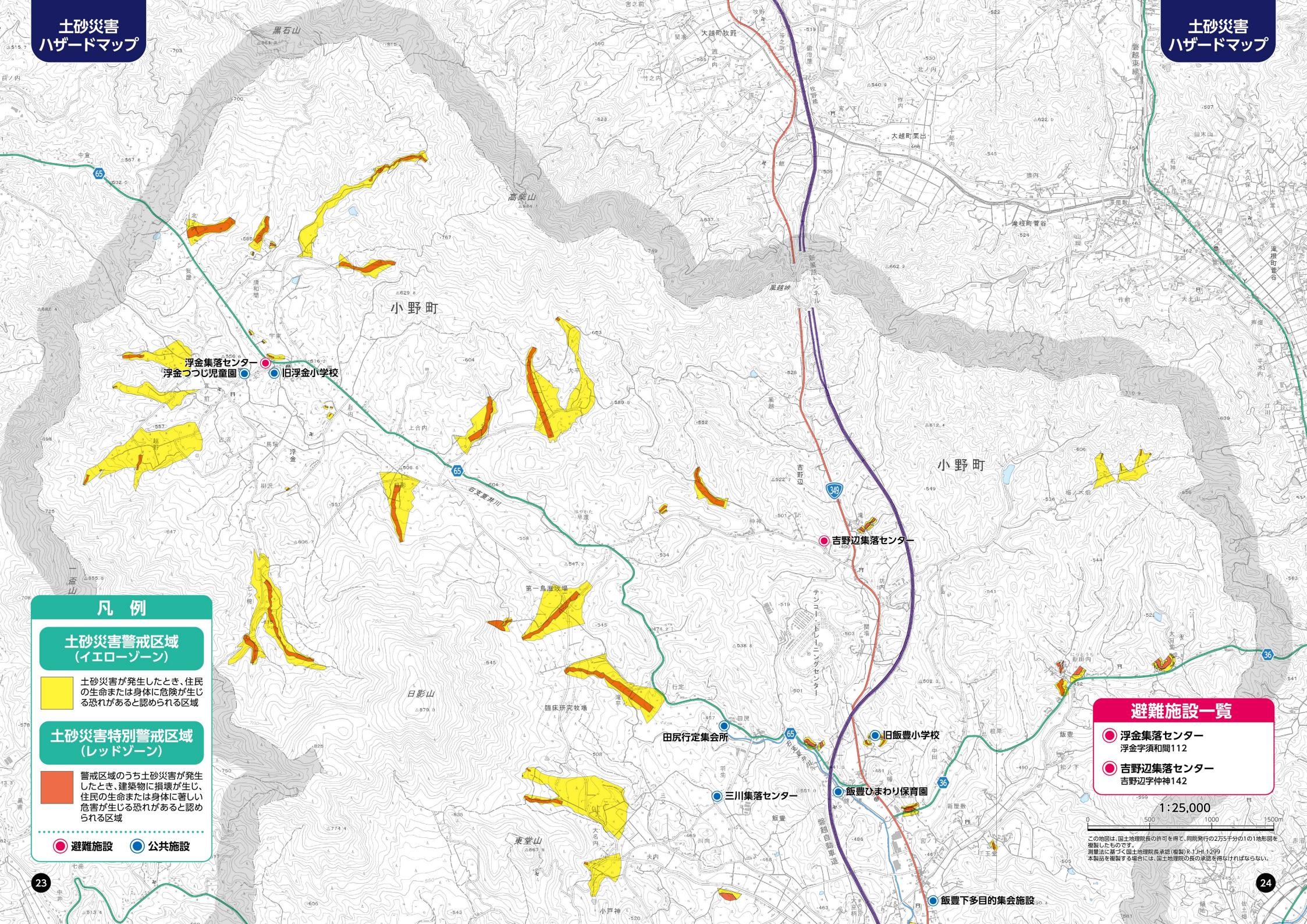
- 伝言を録音するときは → 登録 を選択して伝言を入力する
→ 伝言を確認するときは → 確認 を選択し、被災地の人の携帯電話番号を
入力して伝言を読む

ハザードマップ
全体図

土砂災害ハザードマップ
P.24～P.28

洪水ハザードマップ
P.29・P.30





凡 例

土砂災害警戒区域
(イエローゾーン)

土砂災害が発生したとき、住民の生命または身体に危険が生じる恐れがあると認められる区域

土砂災害特別警戒区域
(レッドゾーン)

警戒区域のうち土砂災害が発生したとき、建物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危険が生じる恐れがあると認められる区域

● 避難施設 ● 公共施設

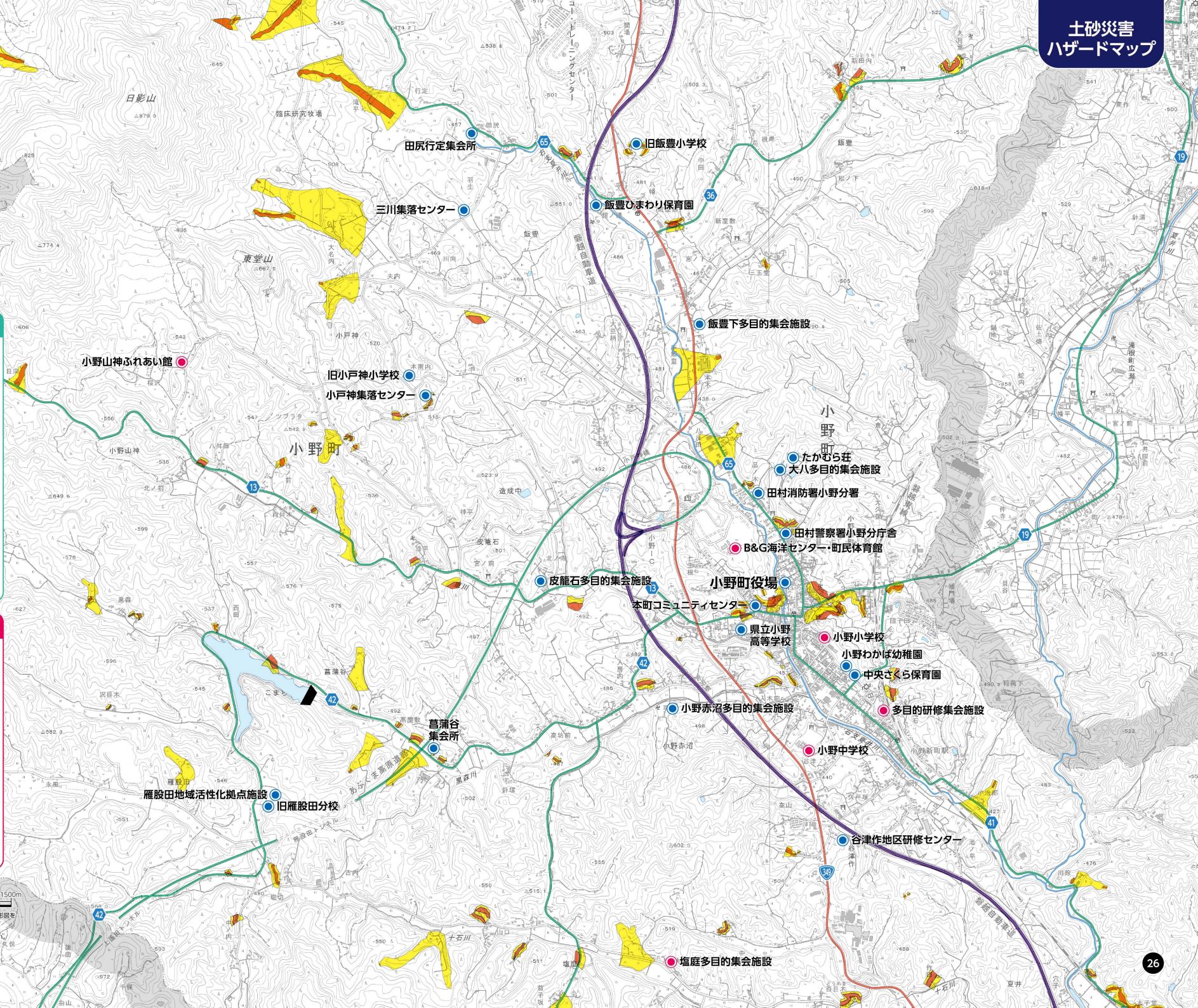
避難施設一覧

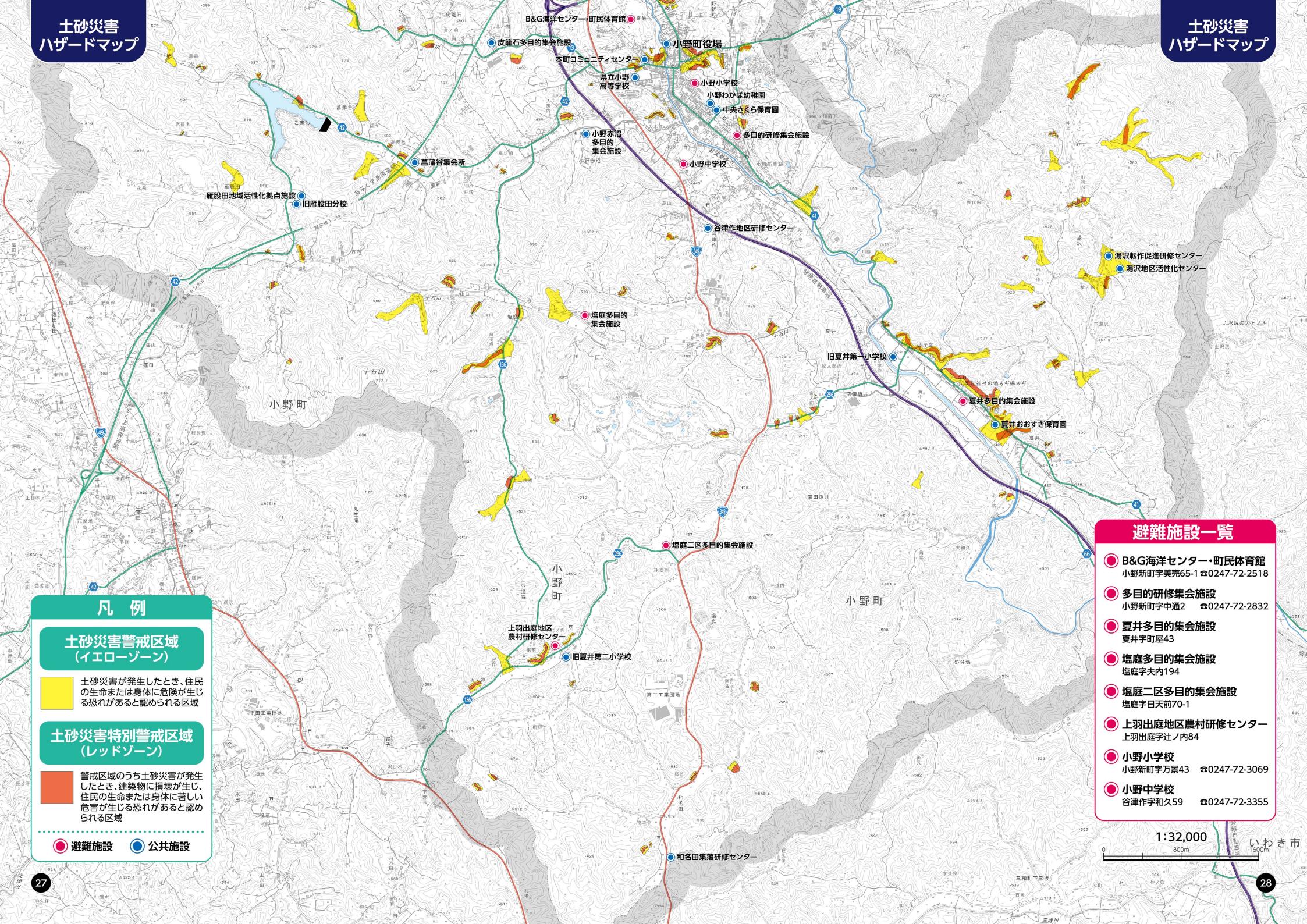
- 小野小学校 小野新町字万景43 ☎ 0247-72-3069
- 小野中学校 谷津作字和久59 ☎ 0247-72-3355
- B&G海洋センター・町民体育館 小野新町字美壳65-1 ☎ 0247-72-2518
- 小野山神ふれあい館 小野山神字畠210-1
- 多目的研修集会施設 小野新町字中通2 ☎ 0247-72-2832
- 塩庭多目的集会施設 塩庭字夫内194

1:25,000
0 500 1000 1500m

この地図は、国土地理院の許可を得て、同院発行の2万5千分の1の地形図を複製したもので、測量法による国土地理院長承認(複製)R-1JH1299。本地図を複製する場合は、國土地理院の長の承認を得なければならない。

ジニアードひらかた





洪水ハザードマップ

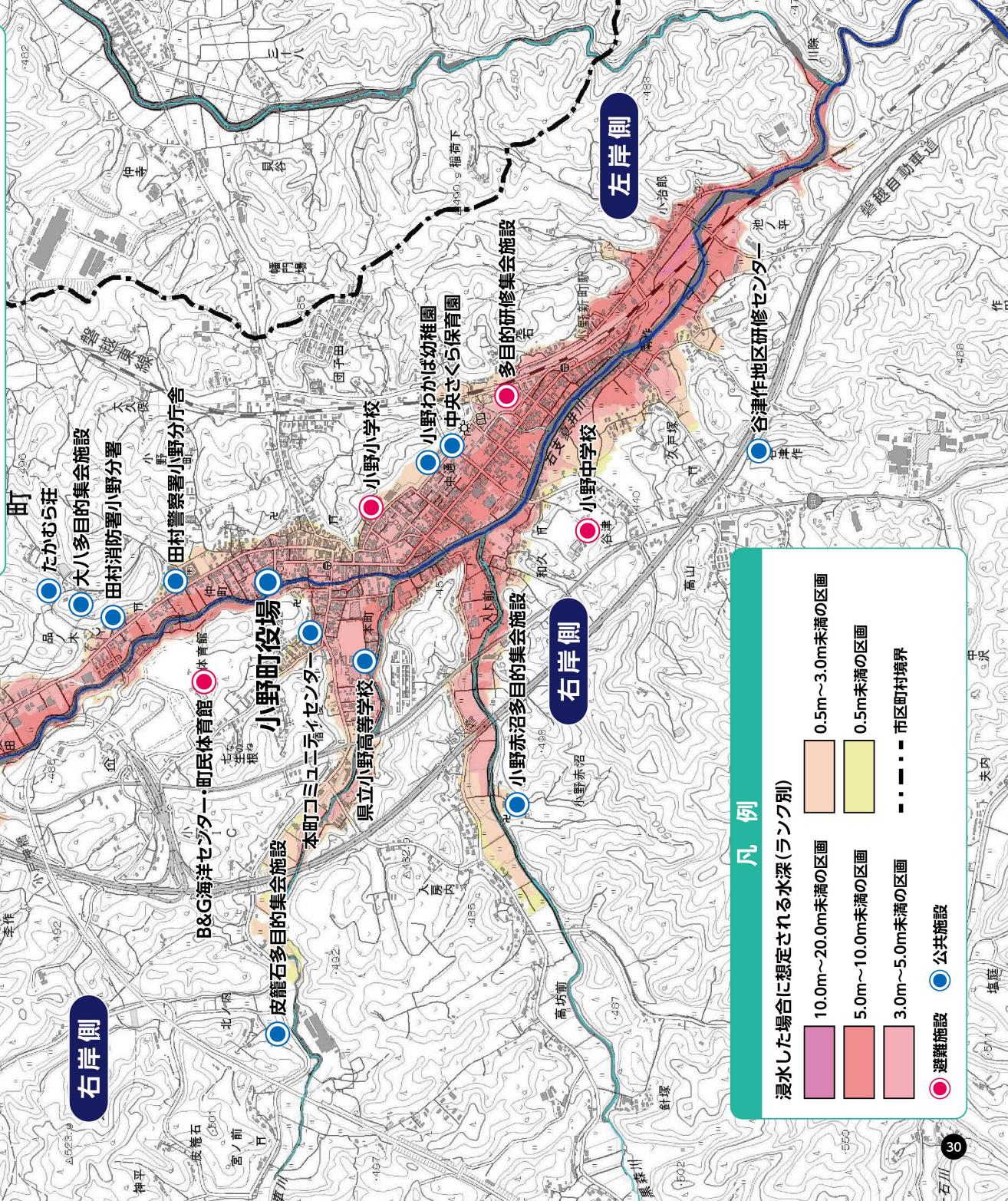
1 / 10 000

講義の呼びかけに注意しよう！

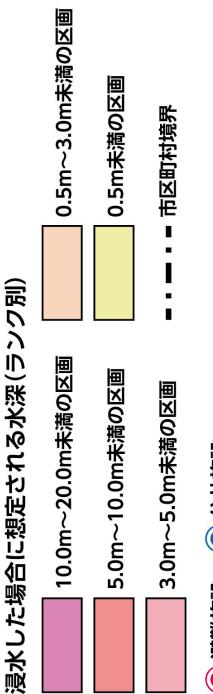
洪水による被害の発生が予想されるときには、その状況に応じて、町から避難準備、避難勧告、避難指示が出されます。これらの情報は、防災行政無線やウェブサイトなどによって皆さんに伝えられますので、町からの呼びかけに注意しましょう。

תְּנִינָה וְתַּבְּרָא

避難の種別	田からへの呼びかけ内容	どちらは、防災事務所です。○○市地区に洪水が発生する警戒レベル3、避難準備をするおまわりさんたちに近づいています。お手元の扇子など避難用の時間のかかる場合は、避難を開始していくください。それ以外の時間のかかる場合は、避難準備を終了し、気象情報を常に注視していく場合や、避難してくださる場合は、近くの安全な場所へ避難してください。	どちらは、防災事務所です。○○市地区に洪水が発生する警戒レベル4、避難準備を終了しました。お手元に金具で固定するおそれのある壁位に到達しました。速やかに金具で固定して、壁位を開始していただくください。避難所への避難が危険な場合は、近い安全な場所へ避難するか、壁位の高いところへ避難してくださったさ。
避難の種別	田からへの呼びかけ内容	エリア内その他の被害者拡大の恐れがある地域や小さな子様連れを対象とする方、その他市町村時間を使つて避難する方を対象とする方等、その他の市町村等にいる方などが不安な方は、避難所へ避難してください。	エリア内その他の被害者拡大の恐れがある地区に住む方等、指定避難所へ避難してくださる方へ、避難所へ避難することができるため、命危險は、建物の倒壊の恐がない場合危険は、建物の倒壊の恐がない場合と判断される場合や近隣避難所へ避難することによって命危險に遭遇する場合へ避難していただくよう、指示を待ちましよう。
避難の種別	田からへの呼びかけ内容	どちらは、防災事務所です。○○市地区に洪水が発生する警戒レベル5、避難準備を終了しました。お手元に金具で固定するおそれのある壁位に到達しました。速やかに金具で固定して、壁位を開始していただくください。避難所への避難が危険な場合は、近い安全な場所へ避難するか、壁位の高いところへ避難してくださったさ。	どちらは、防災事務所です。○○市地区に洪水が発生する警戒レベル5、避難準備を終了しました。お手元に金具で固定するおそれのある壁位に到達しました。速やかに金具で固定して、壁位を開始していただくください。避難所への避難が危険な場合は、緊急に避難をしてください。避難所への避難が危険な場合は、緊急に避難をしてください。命を守るために、行動を起こしてください。
避難の種別	田からへの呼びかけ内容	既に災害が発生しているので、命を守るために、行動を起こすよう。	



例 凡



小野町水害対応タイムライン

い つ				誰が・何をする
目安となる時系列	気象・水象情報	気象庁発表警戒レベル	右支夏井川水位情報	誰が・何をする
5日前～3日前	●福島県気象情報(随時) ●台風進路、前線通過予測等			★災害への心構えを高める ○テレビ、ラジオ、インターネットなどで気象情報を確認しましょう。 ○自宅が「洪水浸水想定区域」又は「土砂災害警戒区域等」のエリア内にある <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		警戒レベル1 「早期注意情報」		
2日前～半日前	●台風・前線が本土に上陸 ●台風・前線の影響による降雨	警戒レベル2 大雨注意報 洪水注意報 気象庁発表危険度分布 注意(黄色)		★避難することを踏まえ、小野町防災ガイドブックなどで避難先・避難ルートを考えましょう。
半日前 ↓ 2時間程度前	●台風・前線が町へ接近 ●記録的短時間大雨情報 【大雨・洪水・土砂災害情報】 ●気象庁「危険度分布」「河川情報」 ●右支夏井川・黒森川一国土交通省「川の防災情報」 ●危機管理型水位計→国土交通省「川の水位情報」 ①五百橋 ②早渡橋 ③杉内橋 ④町屋橋 ⑤小塩橋 ⑥辻ノ内橋	警戒レベル3「相当情報」 大雨警報(土砂災害) 洪水警報 気象庁発表危険度分布 警戒(赤色)	水防団待機水位(1.80m)(薄緑色)	★避難開始のタイミング <input type="checkbox"/> 妊娠中の方や小さなお子様連れの方、高齢者など避難に時間を要する方 【町が発令】 避難準備・防災行政無線・エリアメール等で周知
			氾濫注意水位(2.60m)(黄色)	
最接近・直撃	●台風・前線が町へ最接近又は直撃 ●重大な災害の発生するおそれがさらに高まる	警戒レベル4「相当情報」 土砂災害警戒情報 洪水警報 気象庁発表危険度分布 非常に危険(薄い紫色) 警戒レベル4「相当情報」 大雨特別警報(土砂災害) 洪水警報 気象庁発表危険度分布 極めて危険(濃い紫色)	避難判断水位(3.10m)(橙色)	●上記以外で、自宅が洪水浸水想定区域若しくは土砂災害警戒区域等のエリア内その他被害拡大の恐れがある場合 警戒レベル4 避難勧告(速やかに避難を開始する)
		氾濫危険水位(3.40m)(赤色)		★災害が発生するおそれが極めて高い状況等となっており、緊急的又は重ねて避難を促す必要がある場合 警戒レベル4 避難指示(緊急) 避難対象の方はこの時点までに全員避難!
さらに激しい降雨	●重大な災害の発生するおそれが著しく高まる又は土砂災害や川の氾濫が町全体で発生している		氾濫発生(黒色)	★危険な区域からまだ避難できていない方は、2階へ避難するなど命を守るための最善の行動をとりましょう 警戒レベル5 災害発生情報
通過	●台風・前線のピークが過ぎ、重大な災害が発生するおそれが低くなる	警報解除	水位低下	避難勧告等解除

わが家の防災メモ

第1次避難所		避難に要する時間	分
第2次避難所		避難に要する時間	分
家族が離ればなれになった時の集合場所			

緊急通報メモ 110番、119番に通報する場合は、落ち着いて下記の情報を伝えましょう

氏名	通報時に自宅の目標となるもの
住所	
電話	

携帯電話での通報では、必ず町名を伝えましょう！

家族などの連絡先

氏名	電話	携帯電話・スマートフォン